

平成21年度地域ふれあい道徳教育推進事業（兼 教育を語る会）

## 「道徳の授業公開」と「教育懇談会」第1分科会レポート

テーマ：児童の社会性とコミュニケーション能力について

（平成21年11月14日（土） 午後2時30分～4時00分 実施）

前回到引き続き、今回は、第1分科会の様子をレポートします。

（特に参考になりそうな部分には、事務局の方でアンダーラインをひいてみました。）

### 基調提案：高橋昭副会長

#### 携帯電話の問題・・・そして、子どもからの相談を受け止める環境の構築を・・・

〇みなさんは子どものトラブルと聞いて、何を想像されるでしょうか。私は正面から向き合っ子どもとのトラブルと関わることはしてこなかったと思います。私には4年生の子どもがいますが、担任の先生が学級通信を発行してくれるので、今、何が問題になっているのか、すぐに把握することができます。そういう意味で私の子どもは恵まれているなど感謝しています。

さて、学校を卒業してからのことで心配なのは、携帯電話の問題があると思います。PTA関ブロ大会に参加してからその意識を深めました。現在の課題は携帯電話が「利便性」を何より優先していることだと思います。例えば携帯電話の機能(インターネットでも)の中に「掲示板」というものがあるのをご存知でしょうか。それに子どもたちが特定の子どもについて中傷(悪口)を書いたりして相手を傷つけているのですが、傷つけた子どもの方はそのままで傷つけられた子どもを保護する手立てはなかなか進まないのです。この「掲示板」も利便性の方が優先されています。

アルピニストの野口健さんがおりますね。チベットで見てきたゴミの話講演などで話しますとスポンサーから「その話は止めてくれ」と圧力がかかるらしいのです。スポンサーの利害に関わることを口にされると困るわけなんです。こんなふうに大人同士でも相談するのが難しい時代が今の時代です。携帯電話も通話をするのが目的だからそれが実践できればよいと思うのですが、一旦トラブルに巻き込まれると、どういうふうに対処していけばよいのか、困ってしまいます。社会の悪い影響は避けて通れません。

携帯電話で通話するのは親と子、つまり家庭の問題ではないでしょうか。 子どもが親にいろいろ



道徳の授業風景1(本文とは関係ありません)

相談したいことを持ち出す。それを受け止める環境を構築していかなければならないと思います。

つまり自分のことを相談できるようにしていくことが大切だと思うのです。子どもとの話題を挙げますと「浅間山荘事件」とか「地下鉄サリン事件」がありますよね。今の子どもはよく知りません。「それ、どういう事件なの。」と興味をもって聞いてきます。それで私はすぐには答えなくて、「調べてごらん」と言います。興味をもった子どもは図書館に行って調べてきます。

## 携帯電話の危険性とその対策

○私の子どもは一人っ子で、小さい時から携帯電話を渡していました。不安な点は、どこにいるかわからない時があることと、違ったサイトに入って多額な請求がくることの2点です。

○今はIT化の時代です。ですから、私たちを取り囲む社会の環境を考えた方がよいと思います。IT化の時代には、私たちには「保留」の機会がないということです。大事な決断でもすぐに決めてしまわなくてはなりません。5年の娘には、「携帯電話が欲しい」とねだられますが、「まだダメ」と言ってあります。有害サイトはシャットダウンの機能があるものもありますね。もし有害サイトに入ってしまったら自分の身にどんなことが起こるのだろうか、想像することができれば身を守ることもできるようになると思います。

○上の子は中学生で、下の子は小学生です。携帯電話を持たせたいと思っています。例えば「イトーヨーカドーに行ってきます。」「マンドイ書店に行ってきます。」と一応断って出かけます。心配はあるけれど、携帯は持たせていません。

有害サイトというのがあります。それが有害サイトであるかどうか、明らかに区別がつかないです。SNAサイトというのがあります。年齢も顔も伏せて、プロフィールがあって、掲示板があります。小学6年で登録すると、有害サイトではなく、無料なので広い範囲の年齢層の世界が広がります。携帯払いで契約しますとそのサイトを使わないこともできるし、使うこともできます。同時登録しているサイトが悪質なサイトである場合は、例えば、わたしの携帯電話には19歳ぐらいの人からメールが送られてきます。わたしは子どもたちに伝えています。「そういう人からメールが来た場合、それに何気なく乗っかると、何が起こるかかわからないよ。」と。ひどい場合は携帯のアドレスを変えた時もあります。相手がサクラのような場合もあります。被害に遭っている人が高校生の場合や中学生の場合もあります。親にも先生にも言えず、悩んでいるだけの人もいます。子どもに携帯電話を持たせることに親は心配だ心配だと言うけれど、そういう実態を知りません。携帯電話やパソコンも使い方次第です。携帯電話だけでなく、パソコンでも起こることなのです。有害サイトに自分から入ることはめったにありません。知らないうちにいつのまにか罠にはまってしまったというのが多くの場合なのではないでしょうか。

事務局 注： まず親や教師が、有害サイトの  
実態を知り、適切な手だてをしていくことが  
大切だと思います。携帯電話を買い与えるの  
は家庭ですから、まず各家庭でしっかりと携  
帯電話が管理できるルールなどを決めたり、  
フィルタリングを徹底する。そして学校では、  
いろいろな機会に、安全教育の一環として、  
有害サイトの危険性や情報モラルを教えてい  
く、といった役割分担が大切だと考えます。



道徳の授業風景2(本文とは関係ありません)

○携帯電話の話をします。夫は単身赴任です。夫は私の娘に防犯用として携帯電話を持たせました。携帯電話を持たせるか、持たせないかとかよく議論します。しかし、子ども子どもと一概に言えないような気がします。私の携帯電話の着歌やストラップを子どもが見ています。子どもは母が絵文字を入れるのを見えています。パートに出ている、かわいいストラップがいっぱいあります。それを子どもが見ています。ショッピングセンターで痴漢に何かされそうになった時、防犯用に携帯電話を持たせているので、ストラップなどが目立つようにすると効果的なのだと思います。

## 親子のコミュニケーションに工夫を……

○男の子がいます。うちの子は小さい時から友だちはいないんだと思います。学校で友だちと喧嘩しても親にはあんまり話したくないような様子です。ちょっとコミュニケーションの取り方という点で心配です。

○今の方のコミュニケーションの取り方という点で関連があるので発言します。

私は車で出かけるのが好きです。皆さんは「デートカー」というのを知っていますか。私が若い頃、運転して、となりに女の子を乗せると、意外と話が弾みます。それと同じで今度は息子を乗せてコミュニケーションを取ろうとするとまた話が弾みます。息子は高校3年で、甲府まで送ってきます。「デートカー」と同様に、車の中で、息子がどんどんしゃべってくれます。

事務局 注： 具体的な親子のコミュニケーションのアイデアです。ためしに実行してみてください。

○女の子がいますが親子のコミュニケーションで悩んでいます。だんだん思春期を迎える段階になっていくのに、お父さんにこんなことを聞いてもいいのかなと、こちらはどう対応していったらいいのかなと悩んでいます。

○今の方の発言に関連して発言します。私の高校生の娘は男親とは話をしません。下の娘は男親とも話は弾みます。そんなに難しい話はしませんが。

○お父さんとのコミュニケーションが気になりますが、子供同士のコミュニケーションも気になります。先日子どもが、おやつを買いたいと言ってお小遣いを持っていきました。友だちの4年生の子どものサイフに1万円札が見えました。長崎屋やピーターパンに行って、グループで買い物をしたようでした。子どもに1万円札を持たせた場合と持たせない場合とで、子ども



道徳の授業風景3(本文とは関係ありません)

同士はお金を貸したり、借りたりしていたようです。私は家庭環境のギャップを感じました。自分の子どもに1万円札を渡すか渡さないか。みなさんはどう思いますか。

事務局 注： 親子のコミュニケーション・・・意外と難しいものです。おそらく一般的な特効薬はないと思います。同じ悩みを持つもの同士、情報交換をしたり、愚痴を言い合ったりして、それぞれのよりよい方策が見つけれたらと思います。「デートカー」も参考になりますよね。

○4年生の子どもがいます。うちの子どもは学校の話をよくしてくれる方だと思います。私も自分の子どもがどんなふうになっているのか気になります。子どもは自分の都合のよい方に話をすると思うので、何かあった時には率直に話してくれるとありがたいと思います。

○男の子ふたりの兄弟がいます。問題もいろいろあって過ごしているようです。学校で何かあると家では真っ先におばあちゃんに話します。まるで自分が悲劇のヒーローか何かのように訴えかけます。お母さんに話すと「何だ!」、お父さんに話すと「素晴らしい!」家では聞く相手によって3段階に分かれています。

事務局 注： これはおもしろい取り組みだと思います。家族の役割分担、参考になりそうです。

○私の子どもを見ていて思うことは、もうちょっと緊張感を持ってほしいということです。家で話を聞くと、いつも以上に自由気ままに話します。先生に注意された時、もう少し申し訳ない気持ちになってくれればと思います。話題に出ている携帯電話・パソコン関係では、主人は「怖いこともいっぱいあるからパソコンをネットにつなぐのはもう少し待ってね。」と言っています。我が家では、携帯電話の代りにテレホンカードを持たせています。

○3人の兄弟がいます。3人3様でどうやって接していけばいいのか考えています。兄の方はなかなか話をしてくれません。友だちがいなくて悩んでいます。

○私の家には3人の男の子がいます。友だちづきあいが心配です。先生に相談して先生に対応してもらっています。「ひとりで大丈夫?」と声をかけますが、一人で本を読んでいることが多いです。今振り返ってみて役に立つのは抱っこの時だと思います。ちょっとしたことでも自分を認めていくことが大事じゃないかと思います。子どもに接する時、くすぐってみたら心が元気になるような気がします。



## 第1分科会 児童の社会性とコミュニケーション能力

○パートで働いています。時間がなくて子どもとどのように会話をとったらよいか困っています。夜の10時には最低でも寝かせないといけません。子どもはテレビを見ていても母親が話しかけるとテレビが見られなくなります。毎日がそういうことの繰り返しです。余裕をもって会話ができます。学校が好きなのか、嫌いなのか私とは話を全くしません。別にすごく悩まなくてはいけないというのではないのですが、土・日はスポ少があります。父親がいる時は父親が好きなので母親が家事をしている時も父親がいるだけで雰囲気は違うんです。今から大人になる時に難しいことがあるのではないかなと思います。

事務局 注： 今の厳しい時代、多くの方がきっと同じような悩みを持っているのではないのでしょうか。それぞれの家庭での工夫、ぜひ情報交換してください。

## 子どもの同士のコミュニケーション……「グループ化」を考える

○自分の子どものことを話します。私の2年生の子どもは担任の先生がとても詳しく連絡をくれますのでたいへん助かっています。その子が前に座っている子にいじわるをして、注意してもやめないなので、お母さんから注意してほしいとたいへん細かく観察をして連絡をしてくれました。この細かく見ていることが大事だなと思います。

○5年生の娘がいます。学校生活で特に困っていることはないのですが、高学年になるにつれて、友だち同士のグループ化がしっかりつくられてくるような気がします。グループ化がしっかりできると仲間に入りづらくなると思います。「あっちのグループではあんなことをしている」と気にするようになります。みんなと仲良くしてほしいという気持ちが女の子の側にはあるなと思います。

○先日の文化発表会では元気を出させてもらいました。最近考えていることは教育方針も随分変わってきたなということです。

○低学年の女の子がいます。運動会の取り組みが過ぎたあたりから様子がちょっと変わってきました。ある子に嫌な言葉を投げかけられて嫌だということです。よく聞いてあげるようにしています。

○6年生の担任をしています。高学年になると悩み事を担任の先生や友だちに打ち明けることが多くなります。悩み事を言える相手をさがすことが成長期の過程で多くなるということがあります。

私のクラスでは、現在グループのまとまりが固定化してないので、いいのですが、相手が違う友だちといるのを見るとやきもちを妬く、独占欲が出てくる、それでまたグループをとりつぶすこともでてくる場合もあります。また、交換ノートが始まるのもこの時期です。そういうことが出始めることは、お母さんや先生にも見せられない内容になるということです。

細かい友だち同士のトラブルは日常的にあります。担任としてそれらのトラブルを常に把握できるように努めています。大切なことはいろいろな悩みを持つ子どもたちとうまく付き合っていくことだと思います。

○4年生の担任をしています。中学年の特徴として、この時期の子どもたちは親密性を求める過程にいます。私は(僕は)この子と仲良し!という感覚を求めるのは女子の方が早いですね。先ほどからグループ化が話題になっていますが、グループ化が全然悪いことではないと私は思います。単にグループ化しているかということよりも、子どもたちがスムーズに成長しているかという観点の方が大切だと思います。私は、グループ化が固まってしまって、他のグループに対して閉鎖的、排他的になっていたと判断したなら、子どもたちの中に何か心の不安があるのかとまず疑ってみます。この子たちも何か辛い思いをしているんだなと推測してみることにしています。

大人だって職場で何か嫌なことがあったら、家に帰ってきて奥さんに愚痴をこぼします。子どもだって学校に言って嫌なことがあったらたぶん愚痴をこぼしたくなるんだろうなと思います。そんな時、お父さん・お母さんが受け止めてくださると「ようし、また頑張るか。」という明日への元気が湧いてくるんじゃないでしょうか。

事務局 注： 学校の先生たちも、先生であると同時に、家庭に帰れば皆さんと同じ親であり、また親に対する子どもでもあるわけです。教師としての専門的な知識だけではどうにもならない、皆さんと全く同じ悩みを共有しています。子どものことについて、一緒に考えたり、一緒に悩んだりする気持ちで、本音で話しかけてみてください。保護者と先生は、「教育」というサービスを受け取る「消費者」と、それを提供する「生産者」の相対する関係ではなく、子どもの幸せと明るい日本の未来という同じ目的に向かって共に歩む「教育の協働生産者」だと考えています。本音で話し合い、共に考え、共に悩み、共に喜びを共有していきましょう。

(事務局 注 文責：教頭 石川正人)



## 第2分科会 学力向上と家庭での学習習慣(生活習慣)

(前回、レポート済み)